



# トランプ氏、パイプライン建設推進へ大統領令に署名

- トランプ大統領はオバマ政権の環境政策を覆し、2つの原油パイプラインの建設を推進する大統領令に署名。
- キーストーンXLはカナダ産原油をメキシコ湾岸へ輸送するパイプライン。今後は国務省の審査を経て、建設開始へ。
- 大手MLPが主導するダコタ・アクセス・パイプラインは、今後の連邦機関の承認手続きが進めば、早期の完成が可能に。
- トランプ政権のエネルギー政策を追い風に、MLP市場に対する投資家の再評価が進むことが期待される。

## トランプ大統領はパイプラインの建設推進を承認

トランプ大統領は1月24日、環境問題を背景にオバマ政権が建設許可を保留してきたキーストーンXLパイプラインとダコタ・アクセス・パイプラインの建設を推進する大統領令に署名しました(図1)。

カナダのトランス・カナダ社が進めるキーストーンXLパイプラインは、カナダ産原油を製油所が集積するテキサス州メキシコ湾岸へ輸送する計画です。トランス・カナダ社は大統領令を受けて、1月26日に同パイプラインの建設再申請を行っており、今後、国務省による審査を経て、パイプラインの建設が開始されるとみられます。

## 大手MLPが主導するダコタ・アクセス・パイプライン

ダコタ・アクセス・パイプラインはノースダコタ州バッケン産のシェール・オイルをイリノイ州バトカを経由して、メキシコ湾岸へ輸送する計画です。ダコタ・アクセス・パイプラインは、大手MLPのエナジー・トランスファー・パートナーズやスノコロジスティクス・パートナーズが主導するプロジェクトで、既に全ルート90%は建設工事が完成しています。

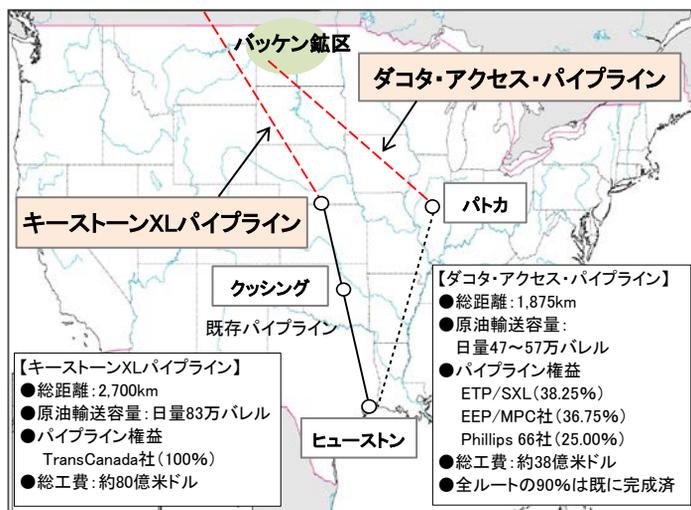
大統領令を受けて連邦機関の承認手続きが迅速になれば、ノースダコタ州オアヘ湖の地下を通す残り約300mのパイプライン建設は早期の完成が可能とみられます。パイプラインが稼働すれば、権益を持つMLPにとって手数料収入増による業績押し上げ効果が見込まれます。

## トランプ政権のエネルギー政策がMLPの追い風に

2016年11月8日の米大統領選挙以降、トランプ政権のエネルギー政策が追い風となり、MLPは米国株(S&P500指数)をアウトパフォームする傾向が続いています(図2)。

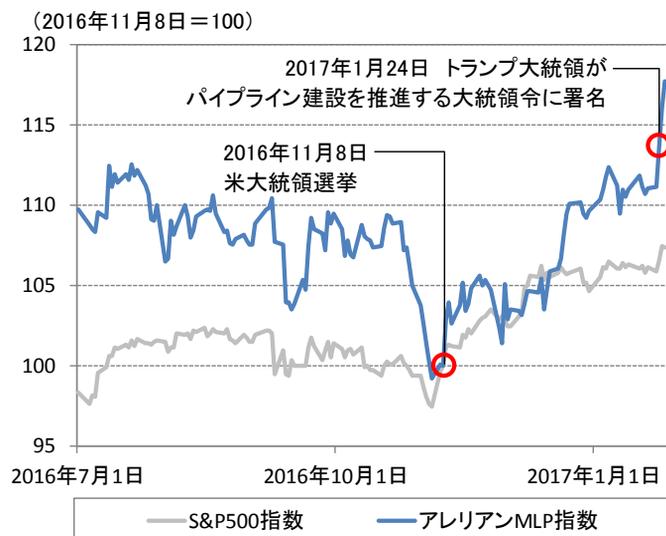
今回、原油パイプライン建設を推進する大統領令という形で、トランプ大統領のエネルギー産業への規制緩和策が実行に移されたことにより、今後、MLP市場に対する投資家の再評価が進むことが期待されます。

図1:トランプ大統領が承認した原油パイプライン計画



(出所)各種資料よりレグ・メイソン・アセット・マネジメント作成  
 (注)ETP=Energy Transfer Partners LP(中流MLP)  
 SXL=Sunoco Logistics Partners LP(中流MLP)  
 EEP=Enbridge Energy Partners LP(中流MLP)  
 MPC社=Marathon Petroleum社(石油精製企業)

図2:米大統領選挙後のMLPと米国株の推移



(出所)ブルームバーグ(期間)2016年7月1日~2017年1月26日  
 (注)いずれの指数も配当を含まない価格指数。

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。